

大学・大学院教育問題

U053-7

小室 裕明 [1]

Hiroaki Komuro[1]

[1] 島大・総合理工・地球

[1] Geoscience, Shimane Univ

2007年度、国内19大学地球科学系学科長会議において議論された内容について紹介し、地方大学の地球科学系教室のおかれている現状について、広くコミュニティーの理解を求める。主な内容は以下のとおりである。

1. 学生の意識変化

・大学全入時代

自己の適性への不安

学生意識: 社会に必要とされる職種; 資格獲得でスキルアップ(適性不安と表裏関係)

・ゆとり教育弊害(基礎学力問題)

必要な基礎学力まで削減(国語・数学・理科・地理・歴史など)

結果として大学教育の過密化(小中高での積み残し教育のしわ寄せ)

補習教育

・専門教育と職業意識

専門に対するモチベーション低下(適性不安とも関連)

学部修士一貫教育の必要性

2. 法人化に伴う諸問題

・運営費交付金逓減

法人化のときの国会付帯決議が反故

「教育」経費に影響大

とりわけ地方大学の疲弊顕著

3. 野外調査を取り巻く諸状況

・地元とのトラブル増加

地質調査, 地球物理観測など

・実習事故: 法人化によって生じた問題

責任賠償保険

自家用車使用問題

4. 災害国としての地学教育

・技術立国教育偏重

・地震・津波・火山・豪雨・豪雪・斜面災害

ジオパーク, ジオツーリズム

国民的防災意識の啓発

地方大学の必要性

・小中高の理科教育

身近な科学 = 地学こそ導入部に最適